

**【拠点形成概要及び採択理由】**

機 関 名	大阪大学、大阪外国語大学	
拠点のプログラム名称	コンフリクトの人文科学国際研究教育拠点	
中核となる専攻等名	人間科学研究科人間科学専攻	
事業推進担当者	(拠点リーダー) 小泉 潤二 教授	外 2 4 名
<p><b>【拠点形成の目的】</b></p> <p>本グローバルCOEプログラム「コンフリクトの人文科学国際研究拠点」は、第一期の事業である21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文科学」を継続再編して、「コンフリクトの人文科学」の研究拠点を形成するための第二期事業である。人類学を中心に、言語学、哲学、歴史学、芸術学、社会学などの基礎分野に加えて、国際協力学、人間開発学、教育学、人間の安全保障論等の実践分野が協働して研究教育拠点の構築を行う。</p> <p>社会的・文化的・民族的な対立と対関係の問題を分析し、その問題になんらかのかたちで対処することは、現代のグローバル世界における最も重要な課題の一つである。東西の冷戦構造が崩壊した1990年代以降、この課題は先鋭化すると同時に質的にも変化した。国家間、ブロック間、あるいは大イデオロギー間の比較的わかりやすい政治対立の図式から、きわめて多数の社会的・文化的・民族的集団が互いに複雑に絡まりあい、そこでは集団自身が急速に変化していくような流動的状況が生まれる中で、文化的、宗教的、社会的、経済的なレベルを含む様々な対立が様々に生起している。このように複雑化し流動化するコンフリクトの状況を理解するためには、その場に生きる人びとに焦点を合わせた現地調査に基づいて、綿密な、あるいは「厚い」現実理解が必須である。そのような対立や緊張を減じる方策があるとすれば、そうした理解を前提としなければならない。</p> <p>本拠点はこの課題に対し、社会科学に加えて人文諸科学から貢献し、グローバルな次元におけるコンフリクトという問題に関する実践的研究を推進し、創造的に問題に取り組もうとする優秀な人材を育成することを目的とする。</p> <p>なお、この拠点構築事業は、大阪大学と大阪外国語大学の統合による制度的革新と連動している。</p> <p><b>【拠点形成計画の概要】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大阪大学大学院人間科学研究科と文学研究科に、「コンフリクトの人文科学国際研究教育拠点」を形成する。これは21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文科学」を構成する6つの「モデル研究」を絞込み、トランスナショナリティ研究を中心として再編成したものである。</li> <li>2. 1990年代以降、複雑化し流動的となった現代世界において、民族や宗教や言語やイデオロギーなど、「価値」をめぐって生起するさまざまなコンフリクトについて、人類学ほか人文科学の諸分野の協働のもとに研究し理解しようとする。とくに、全世界のあらゆる場所にもたらされている「上からのグローバル化」に対する「下からの反応」について、現場に生きる人びと自身に焦点を合わせた現地調査を中心とする研究を行う。</li> <li>3. 本拠点到8つのRF（リサーチフォーカス）を置く。「トランスナショナリティ」「人間の安全保障」「人権と人道」「コンフリクトと価値」「言語の接触とコンフリクト」「交錯するアートメディア」「横断するポピュラーカルチャー」である。COE運営会議が本グローバルCOEプログラムの全体を統括し、RFが相互に連携しながら研究教育を進める。</li> <li>4. 大阪外国語大学との統合を契機として平成19年度に大阪大学に新設されるグローバルコラボレーションセンター（GLOCOL）と、平成17年度に設置されたコミュニケーションデザイン・センター（CSCD）は、ともに「インターフェイスの人文科学」の直接・間接の成果である。これらのセンターとの連携を通じて、グローバルな研究協力のネットワークの有効な拡大をはかる。</li> <li>5. トランスナショナリティや言語コンフリクトなど、各RFによる連続的なセミナーの開催を研究の推進力とする。</li> <li>6. グローバルなシステムの中で、コンフリクトの位置に近い場所で国際シンポジウムやワークショップを開催し、世界のさまざまな異なった地域の研究者を集め、それを通じて「位置性」を視野に入れたコンフリクト研究を展開する。また、コンフリクトを理解する上で、地域言語の研究を重視する。</li> <li>7. 複雑化し流動化する現代世界で消えることがない、さまざまなコンフリクトについて深く理解し創造的に問題に取り組もうとする実践的な研究者を養成することが、人材育成上の目的である。</li> <li>8. 若手研究者養成のための助成などの教育支援を重点的に行う。論文執筆のためのアカデミック・ライティング・セミナーや、コミュニケーション能力を開発するための「コミュニケーションデザイン教育」の機会など、独自の支援を展開する。</li> <li>9. JICAとの連携協定締結などにより可能となる国際インターンシップを重視する。また、現地調査に派遣するための競争資金を本COEプログラムとして用意する。</li> <li>10. 国内外から若手研究者を積極的に受け入れ、先端的研究者を招聘し、活発な研究と討議の場を創生する。</li> <li>11. COE評価室を設けて自己評価を行うとともに、アドバイザリー・ボードの助言を受けて事業の改善をはかる。</li> </ol>		

機 関 名	大阪大学、大阪外国語大学
拠点のプログラム名称	コンフリクトの人文学国際研究教育拠点
<p>〔採択理由〕</p> <p>「コンフリクト」という、21世紀の世界が直面する問題を、幅広い人文科学の視点から解決しようとする意欲的な拠点形成計画である。大阪外国語大学との統合を視野に入れ、大学の将来構想の中での位置付けも明確に示されている。</p> <p>人材育成面においては、大学院生に対するカリキュラム、指導体制や研究環境に対する支援の強化が図られており、国内外のアドバイザーによる評価システムや、公募と競争ベースによる研究資金・調査資金の配分など、若手研究者の能力向上を有効に図るための仕組みに工夫が見られる。</p> <p>研究活動面においては、コンフリクト概念の包括性へのアプローチに、さらに学際的な視点から対応し、8つのリサーチフォーカス間で計画通りに連携が行われれば、大きな成果が期待できる。</p>	